

自然災害時避難方法

早めの避難



沢田 栄治 議員

自然災害には、台風、地震、津波、局地的豪雨等。自分の身は自分で守る。

問 マニュアルはあるか。
答 避難マニュアルはないが、防災マップに避難時の心得として、8項目を掲載。

問 避難情報の方法、種類。
答 防災行政無線、防災ラジオ、広報車による巡回広報、あんしん防災ネットによるメール送信など。

種類は避難準備情報、避難勧告、避難指示の3種類。

問 どの状況で避難情報を出すか。
答 大雨・洪水警報後、避難準備情報は、1時間雨量40mm。避難勧告は、1時間雨量52mm。

避難指示は、大雨特別警報と土砂災害に関する警報が発表されたとき。



平成12年9月 東海豪雨 植大駅前

問 避難場所の開取決め。
答 警報発令後は、災害対策本部を設置し職員を避難所に派遣する。中央公民館を開設し、自主防災会に避難所の開設をお願いする。

問 危険箇所の把握。
答 河川および土砂災害警戒区域の監視が必要。

問 高齢者への配慮。
答 避難準備情報は要援護者避難情報でもあり、避難施設として、一期一会荘と協定を結んでいる。

問 周知の方法。
答 広報、HP、回覧、ゴミ分別収集カレンダー。

小型家電リサイクル

月一回、回収

小型家電リサイクル法が昨年4月1日に施行され、本町においても本年4月より回収がスタートした。

問 近隣市町の回収状況。
答 知多半島5市5町では、8市町が実施。

問 リサイクルの必要性と意義。
答 有用な金属、有害な物質を適正に処理することができるといえる。

問 回収手順と後の処理。
答 毎月1回、役場駐車場で回収。認定事業者へ売却し、その事業者が金属等の再資源化を行う。

問 4月からの回収量。
答 計6767kg。



環境省・経済産業省のポスターより

問 場所、回数の見直し。
答 1年間の回収状況を見ただうえで、研究する。

問 回収の収益。
答 5カ月分1万8441円。

町民からの要望・苦情 責任を持って返答

要望・苦情の対応について。

問 要望・苦情の一カ月平均。
答 平成25年度は718件、一カ月平均約60件。

問 できない時の対応。
答 すぐに対応できないものは、その理由を付して回答する。

問 各課に返答責任者がいるか。
答 担当課の職員が、責任をもって返答する。

問 住民と行政協力員の要望について対応の仕方。
答 町民の要望は、担当課にて対応。行政協力員の要望は、緊急性や地域バランスを考慮しながら対応。

問 町全体でデータ管理しているか。
答 現在できていない。庁舎全体の文書管理を含め検討する。